

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (県立宮代高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる</li> <li>2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる</li> <li>3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 9 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習は順調で定着したが、モチベーションを維持する工夫改善を行う必要がある。</li> <li>成績不振科目数は、昨年減らすことができなかった。欠点を取らせない丁寧な指導を継続し強化する。</li> <li>生徒手帳と教育計画を一体化した手帳を活用し、学習習慣や学習意欲を向上させ、家庭学習の定着につなげる取り組みを継続する。</li> <li>高大接続改革を見据えた授業改善を行う必要がある。授業を通して生徒の主体性を引き出し、思考力、判断力、表現力を育成する。</li> </ul>	基礎学力向上のための取組を継続し、学習習慣や学習意欲を向上させ、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全学年で毎日基礎学力向上のテキストを用いて自学自習の朝学習を10分間実施し、学習習慣を確立する。年12回の確認テスト・振り返りを行う。</li> <li>②教務部を中心に年間を通しこれまでの取組(勉強マラソン、部活動勉強会、学習サポーターによる個別支援、授業への取組3割評価、指名補習)を継続し、改善・充実を図る。</li> <li>③学年や進路行事等を通して宮高手帳を活用する機会を増やす。</li> <li>④「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究開発校として、授業改善を推進し、授業研究に組織的に取り組む。</li> <li>⑤教育課程研究指定事業進路モデルプラン拠点校として、新教育課程編成に取り組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒が集中して取り組むことができたか。家庭学習時間が増えたか。</li> <li>②各学期の成績不振者数が、前年度の2割減以上であったか。また、勉強マラソンへの参加率が前年度を上回ることができたか。</li> <li>③宮高手帳を有効活用できたか。</li> <li>④主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善がなされているか。授業アンケートで授業の理解度が8割以上。授業がわかりやすいと回答する生徒が8割以上。</li> <li>⑤学校の目標と生徒の進路を見据えた教育課程が編成できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①92%の生徒が授業に概ね集中したと回答。2学年で家庭学習時間が微増。</li> <li>②成績不振者4割減。勉強マラソン参加者は昨年と比べ増。1学年は半分の生徒が参加した。</li> <li>③宮高手帳は昨年と同程度の活用。優秀者を表彰した。</li> <li>④68%生徒が理解していると回答。授業が分かり易いと86%の生徒が回答。</li> <li>⑤教育課程は現在作成中。2,3学年のカリキュラムの内容を検討中である。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の時間が多くない。学力向上のため宿題等を検討し家庭学習を増やすことも必要か検討する。</li> <li>宮高手帳の更なる活用を考える。キャリアパスポート(ポートフォリオ)との連携などを視野にタブレットによる電子化もよいと思われる。</li> <li>生徒の授業理解度がもう一つ伸びない。生徒を授業に積極的に参加させる工夫が必要。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの丁寧な生徒指導により、落ち着いた学校生活が送れている。</li> <li>遅刻者数の減少が課題である。遅刻者、欠席者は2学期から増加する傾向にある。</li> <li>校内の生徒指導のチーム力を向上させ、個々の生徒の特性に応じた指導を行う必要がある。</li> <li>教育相談体制を充実させることとあわせて保護者との相談や不登校の未然防止に力を入れる。</li> <li>部活動、生徒会の活動を通し生徒の自己肯定感・自己有用感が高められている。部活動、生徒会で活躍している生徒を核にして学校の活性化を図っていく。</li> <li>希望の進路実現とともに生徒に身に付けた知識や技能をこれからの人生や社会に生かそうとする視野をもたせる必要がある。</li> </ul>	校内の生徒指導・教育相談・進路指導のチーム力を向上させ、目的意識・規範意識を持ち、希望の進路実現のために主体的に行動できる生徒を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教務部が遅刻・欠席者数の数値を分析・評価することで遅刻・欠席者数を減少させる。</li> <li>②生徒への働きかけ、教員の情報共有、保護者との連携を密にし、チーム学校で生徒指導にあたる。</li> <li>③保健環境部で年度の早い時期にスクールカウンセラー、巡回支援員等を講師とする研修会を実施する。</li> <li>④部活動ミーティングや文化部フェスタなどの生徒の活躍の場を設ける。</li> <li>⑤「宮高進学モデルプランプロジェクトチーム」を発足し生徒の進路実現に繋がる教育課程を検討する。</li> <li>⑥進路指導部・学年で連携し、学力上位層のための講座を開講する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①遅刻・欠席者数が、前年度の2割減になったか。</li> <li>②積極的な生徒指導の結果特別生徒指導件数が3割減になったか。</li> <li>③研修会を実施できたか。不登校等の未然防止に寄与したか。</li> <li>④部活動の定着率が高まったか。</li> <li>⑤教育目標を実現するための教育課程の編成が進んだか。</li> <li>⑥学力上位層のための講座を実施できたか。参加者数を増やすことができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①遅刻・欠席者数は遅刻15%減、欠席70%減。</li> <li>②特別指導の件数は半分以下になり65%減、人数は85%大幅減。</li> <li>③研修会は実施したが、外部の専門家を招けなかった。</li> <li>④部活動の定着は横ばい。文化部フェスタは学校で実施。部活動主体の奉仕活動も実施できた。</li> <li>⑤教育課程委員会と共同で検討。</li> <li>⑥講座・参加数とも昨年度と比較し7講座増、参加者も51名増。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席・遅刻、特別指導の件数の大幅な減少が図れた。来年度以降はこのようなことは難しい。如何に安定的に漸減できるか今後検討する必要がある。</li> <li>特別教育の研修会は大学講師の都合が大きいため、特別支援教育課との調整を早くから実施する必要がある。</li> <li>文化部フェスタについて、在り方を含め、部活動委員会で検討が必要。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域、関係諸機関等の連携が強化され、地域から感謝される機会が増えている。</li> <li>地域の人々の理解・協力を得ながら生徒の活躍の機会を増やし、生徒の活動をポートフォリオとして蓄積していく必要がある。</li> <li>目的意識を持って受検する志願者が増えて、生徒募集も安定しているが、更にステップアップした生徒募集が必要である。</li> <li>生徒会、部活動等におけるよい評判や生徒の活躍を情報発信し、小・中学校からの信頼を得て安定的な生徒募集につなげていく。</li> <li>保護者・地域への定期的な情報伝達により、保護者・地域からの理解・協力を得る。</li> </ul>	保護者、地域、関係諸機関との連携を密にし、地域社会における体験的な活動への参加を促進し、生徒の活躍の場を確保するとともに、本校の良さを積極的にアピールし、生徒募集につなげる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①宮代町の小学校4校・中学校3校、宮代町教委、関係諸機関と学習指導等で連携を強化する。</li> <li>②生徒会、委員会、部活動でボランティア活動等に積極的に参加する。</li> <li>③中高連携委員会で生徒会、部活動の生徒を動かし、生徒が活躍できる学校説明会、広報活動や地域活動を実施する。</li> <li>④学校の情報をHPや「宮高だより」で積極的に発信する。</li> <li>⑤5年次研修や「質の高い学校教育の推進事業」を活用し、近隣の小・中・高等学校・特別支援学校と共に学び合う研修会の機会を作る。</li> <li>⑥保護者の各種学校行事・PTA行事への参加案内を積極的に行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①連携した取組が実施できたか。</li> <li>②ボランティア活動が増えたか。参加者数が、前年度より増加したか。</li> <li>③学校説明会等の参加者数が前年度を上回ったか。本校志願者の9割以上が学校説明会に参加したか。</li> <li>④HPのアクセス数が増加したか。</li> <li>⑤近隣の小・中・高等学校・特別支援学校と情報共有ができたか。</li> <li>⑥行事に参加する保護者数が増えたか。保護者アンケートで高評価を得たか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業見学本校へ地元中学校から4名来校。また地元中学校の授業を本校教員が見学。出前授業も2校で実施。</li> <li>②ボランティア活動の参加者は昨年より1割程度増えた。</li> <li>③生徒募集の一環として生徒の母校訪問を実施。説明会等の参加者は昨年と比べ減少。志願者の85%の生徒が説明会に参加した。</li> <li>④HPの閲覧は60%増。更新回数は昨年より増えた。トップページ等を改変。「変わりましたね」と地元小学校からの反応。</li> <li>⑤延べ70名以上の生徒が小学校に学習ボランティアとして参加。昨年より20%増えた。</li> <li>⑥保護者の来校は学年PTAへの参加が約6倍に増えた。行事や授業参観は横ばい。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携が増えた。今後生徒の成長にどのように役立っているか検証をする必要がある。</li> <li>HPは改善したが「見にくい」との指摘もある。今後トップページも含め更なる改善を図る。</li> <li>また、更新回数も分掌・部活動等担当により異なる。気軽に更新できるような仕組みが必要。</li> <li>PTAの来校について、有効な行事の同日開催など、行事の調整を検討する必要がある。</li> </ul>

実施日	令和2年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価が高かったので安心している。</li> <li>現場の先生がよくなっていると実感しているのが一番の成果である。</li> <li>この評価を維持できるのが今後の課題である。</li> <li>ポイントを絞ってやったほうがいい。学校として何を指すのか、生徒にわかってもらえることが目標。意識付、動機づけが必要と思う。また、就職・進学の生徒では目標が異なる。生徒それぞれに合わせるために、生徒に分かってもらえる目標設定をお願いしたい。</li> <li>生徒ができないことを数えるのではなく、できることを増やしていきたい。</li> </ul>
出席状況の改善が素晴らしい。諦めずに指導する。言って聞かせてやらせる、言ってみせてやらせるを辛抱強く指導して欲しい。	
目標は100%。不可能な数字であるが、それを達成するために何を行っていか。民間では65%できればまずまずとの考えがある。来年以降とりえず目標値として95%を最大として設定し、それを指すことに挑戦してみてもいい。結果65%でも成果と考えてもよいのではと思う。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>年々良くなってきている。宮代高校は地元にとって重要な機関。いろんな生徒と住民との交流がある中で、活力をもたらしているのはありがたい。地域に貢献している。</li> <li>例えば、学級通信は出さなくていい。ホームページ上で公開される情報であるので、労力をかけても無駄なのでは。情報はホームページで一歩化してしまってもいいのではないか。こうした合理化も必要ではないか。目標として決めたものは先生方全員で負担しているが、それをやり続けることが果たして可能なかを考えてみてほしい。</li> </ul>	